

[http://www](http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/)

国際・地域連携センター ニュースレター 〈第19号〉

〒780-8073 高知県高知市朝倉本町2丁目17-47

TEL:088-844-8555 FAX:088-844-8556

<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/>

編集責任者:吉用武史

はじめに

土佐フードビジネスクリエーター人材創出 5年間の歩みを総括するシンポジウム開催

土佐フードビジネスクリエーター人材創出(土佐FBC)は、文部科学省科学技術戦略推進費による補助を受け、平成20年度から実施されました。補助期間である5年間を終えるにあたり、これまでの成果を総括するシンポジウムを開催することとなりました。

日時:平成25年1月29日(火) 13:00~17:00

場所:高知会館2階「白鳳」

(高知県高知市本町5-6-42)

基調講演としてソフトブレイン・サービス(株)の小松弘明会長や、(独)農業・食品産業技術総合研究機構 食品総合研究所 食品機能研究領域長の山本万里様にご登壇いただきます。

プログラム等の詳細は土佐FBCのホームページにて掲載いたします。多くの皆様にご来場いただきますようお願い申し上げます。

(土佐FBCホームページ)

<http://www.ckkc.kochi-u.ac.jp/~ckkc0001/tosafbc/>



目次

p1 はじめに

p2 地域連携・再生部門

Topic1. 高知市総合調査結果を広く市内へ!

Topic2. 専門家による整枝・剪定 実技指導

p3 産学官連携部門

Topic1. ものづくりが高知を元気にする!!

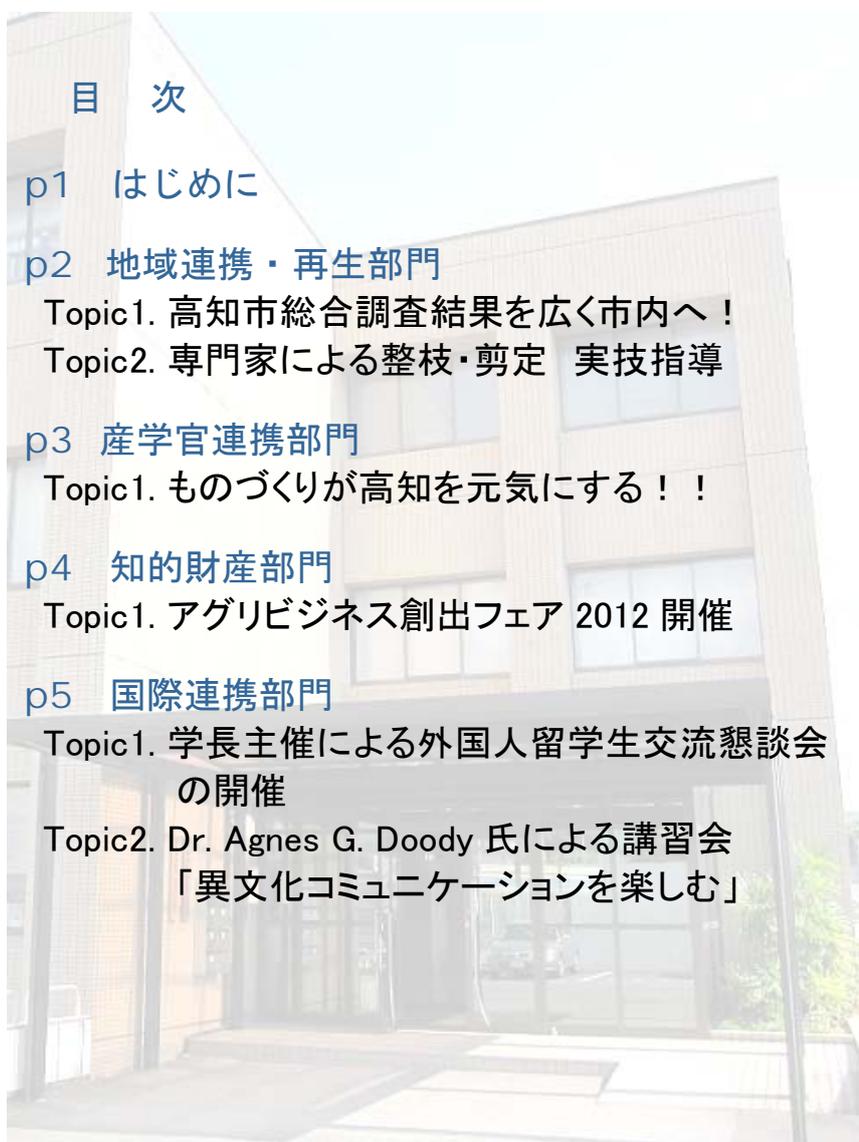
p4 知的財産部門

Topic1. アグリビジネス創出フェア 2012 開催

p5 国際連携部門

Topic1. 学長主催による外国人留学生交流懇談会の開催

Topic2. Dr. Agnes G. Doody氏による講習会
「異文化コミュニケーションを楽しむ」



Topic 1. 高知市総合調査結果を広く市内へ！ ～高知市共催公開講座 土佐山・鏡・春野地区～

高知大学が平成 19～21 年度まで高知市からの受託事業として実施した高知市総合調査について、平成 22 年度から、その調査結果を広く役場職員はじめ市民の皆様にご覧いただくことを目的に、高知大学と高知市の共催による「高知市総合調査公開講座」を実施してきました。

平成 24 年度は、より広範な地域で開催することを目的に、会場を土佐山・鏡・春野の 3 地区にて実施しました。3 地域の講師および講座内容は以下の通りです。講師をお引き受けいただいた先生方に深謝いたします。

11 月 24 日(土):土佐山地区(夢産地パーク交流館「かわせみ」)

自然科学系理学部門 中川 昌治 准教授

「高知市地域の地質資源」

総合科学系地域協働教育学部門 大槻 知史 准教授

「防災×地域活性化のまちづくり

—田舎も都会もトクするしくみを考えよう—

11 月 26 日(月):鏡地区(鏡構造改善センター)

総合科学系地域協働教育学部門 玉里 恵美子 准教授

「新しいグリーンツーリズムへの挑戦 —鏡の良さを活かして—」

自然科学系農学部門 原 忠 准教授

「南海地震と斜面防災」

11 月 27 日(火):春野地区(春野公民館大ホール)

総合研究センター防災部門 岡村 眞 特任教授

「津波から命を守る四つの基本」

総合科学系地域協働教育学部門 俣野 秀典 講師

「高知市の産業と若者の雇用」



Topic 2. 専門家による整枝・剪定 実技指導 ～第 2 回ブルーベリー説明会 開催～

12 月 9 日、大豊町にてブルーベリー栽培の説明会を開催しました。

平成 24 年 3 月 9 日に初回説明会を行っており、初回は参画メンバーの活動紹介や今後の展望の説明を行いました。その結果、ブルーベリー栽培の具体的な内容を知りたい、定期的な説明会を行ってほしい、等の声を頂き、今回、第 2 回目の説明会を行うこととなりました。

主催:ブルーベリー検討会

(検討会メンバー:高知大学、大豊町、高知県果樹試験場、高知県工業技術センター、高知県嶺北農業改良普及所、西日本高速道路エンジニアリング四国(株)、(株)大豊ゆとりファーム)

講師:高知大学自然科学系農学部門 浜田 和俊 講師

高知県果樹試験場 中平 智章 主任研究員

西日本高速道路エンジニアリング四国(株)

高知県嶺北農業改良普及所 西本 典矢 普及指導員

当日は雪が降る冷え込む日でしたが、前半、後半部分とも約 30 名の参加者にお越しいただきました。



Topic 1. ものづくりが高知を元気にする！！ ～ものづくり総合技術展 出展報告～

高知県産業振興計画の重要な取り組みとして、機械設備の製造や各種加工など、付加価値を生み出す工程をできる限り県内で行う「ものづくりの地産地消」を推進しています。

この取り組みの中で、県内企業等の優れた製品や最新技術の県民に対する理解を深めるとともに、企業同士の交流を通じ、新たな製品開発や取引の拡大、ひいては新たな技術革新を促すことを目的として「ものづくり総合技術展」が高知ちばさんセンターを会場に、11月29日～31日の期間にて開催されました。期間中、県内外から約15,200人の来場者がありました。



本県の強みを活かせる産業分野のテーマが設定されており、それぞれのテーマゾーンにて以下の内容の出店が行われました。なお、本学は産業教育ゾーンへの出展を行いました。

- ・ものづくりゾーン／1次産業が育んだ機器から先端産業機械まで「機械系ものづくり」のエリア
- ・防災ゾーン／来たるべき南海地震に備える防災用品や機器のエリア
- ・食品ゾーン／県内各地の特産品等の加工技術や加工機器等のエリア
- ・新エネルギー・環境ゾーン／土佐和紙を源とする各種紙製品や再生可能エネルギー関連製品のエリア
- ・産業教育ゾーン／教育機関の持つシーズや産学連携の取り組み紹介のエリア
- ・屋外展示ゾーン

【本学からの出展内容】

「ユズ種子油(本学と馬路村農業協同組合が協力しての出展)
食品や化粧品等様々な分野への利用」

本学研究者: 医学部看護学科 渡部嘉哉 特任講師



また、11月30日には県内3大学及び高知工業高等専門学校による県内企業との産学連携事例発表が行われました。

【本学からの発表内容】

「ウコン近縁種の機能性成分に着目した栽培・加工技術の開発」
発表者: 自然科学系農学部門 宮崎 彰 准教授



Topic 1. アグリビジネス創出フェア 2012 開催 来場者数 過去最高！

11月14日～16日の3日間、東京ビッグサイトにおいて、技術交流展示会「アグリビジネス創出フェア2012」が開催されました。

農林水産省主催による「アグリビジネス創出フェア」は、農林水産業・食品産業分野における最新の研究成果や技術の実用化・産業化を目指した技術交流・展示の場であり、本年度は大学、民間企業、都道府県の試験場、独立行政法人等全国189機関による最新技術の展示等が行われ、過去最高の約3万3千人の参加(来場者)となりました。

会場では、プレゼンテーションやポスター展示、新商品の試飲・試食等が行われ、また、企業とのマッチング活動が積極的に行われるなど熱気あふれるものとなりました。

[本学(農学部)からの出展等]

・生命環境医学部門 永田 信治 教授

「地場産の微生物を用いた商品開発とその評価」

- ①乳酸菌を利用したペットフード開発とその評価
- ②野生酵母を用いた低コスト製パン法
- ③黒酵母βグルカンを用いた商品開発

・農学部門 藤原 拓 教授

「気候変動を考慮した農業地域の面的水管理・カスケード型資源循環システムの構築」

・農学部門 宮内樹代史 准教授

「中小規模園芸ハウスを対象とした複合エコ環境制御技術開発の取り組み」

・農学部門 西村 安代 准教授

「養液栽培用新培地」



Topic 1. 学長主催による外国人留学生交流懇談会の開催

11月28日(水)に学長主催による外国人留学生交流懇談会を開催しました。この懇談会には、中国、韓国など21ヶ国の留学生約100名と地元の留学生支援団体、関係教職員等が参加しました。

開催にあたり、脇口学長から留学生への励ましの挨拶の後、懇談では、昨年12月以降に入学した留学生の紹介、各キャンパスを代表した留学生のスピーチ、アトラクションなどが行われました。アトラクションでは、脇口学長の尺八による「木枯らし」、「北国の春」の演奏、櫻井理事の演奏に合わせた「もみじ」と学歌の合唱、インドネシア、モンゴル、メキシコ、ホンジュラスの留学生による伝統的な踊りや民族楽器の演奏などの披露で大いに盛り上がりました。最後は「幸せなら手を叩こう」を留学生が順番に各国の母語で歌い上げ、留学生、教員、支援団体の方々が一体となり、交流を深めることができました。



Topic 2. Dr. Agnes G. Doody 氏による講習会 「異文化コミュニケーションを楽しむ」

11月9日(金)に米ロードアイランド州立大学名誉教授 Dr. Agnes G. Doody 氏を講師に「異文化コミュニケーションを楽しむ」と題して、国際・地域連携センター国際連携部門主催のFD・SD講習会を開催しました。

本学教職員をはじめ、日本人学生や外国人留学生、地域住民など82名が参加し、「物事の違いを認め、勝手に自分の価値観で判断しないことを学びました」、「世界には違った文化があり、それぞれの価値観がある。好奇心を持って外の世界に行くべきだと感じました」などの意見が聞かれました。

